

臨床腫瘍科

久田原郁夫

臨床腫瘍科は、平成 11 年 4 月に新たな科として設立されました。腫瘍内科、腫瘍外科、緩和ケア内科の 3 科の総合科となっています。所属する医師は、現在計 6 名（内レジデント 1 名）で、スタッフは緩和ケア内科を除いてすべて兼任で各々の専門領域（呼吸器、消化器、原発不明がん、骨軟部腫瘍、緩和ケア）を中心に診療をおこなっています。治療の守備範囲は主に化学療法になりますが、独立した病床はもっていないため入院で行う場合は各科の病床を使用しています。

本年度より、はじめてレジデントを採用し、がん薬物療法の専門医育成を目標とした臨床腫瘍科カリキュラムの指針に沿って各診療科で診療に従事しています。

定期的行事として、外来化学療法室運営会議、臨床腫瘍科カンファレンスは毎週火曜日、Cancer Board, がん薬物療法委員会は毎月、当科が主体でおこなっています。また、がん診療に関連する様々なテーマでオンコロジーセミナーを全職員対象に年 4 回講堂で開催しております。これらの行事はがんの診断、治療に関して総合的かつ横断的に討論し知識を深めるよい機会となっています。

がんの種類は多彩でその臨床像もさまざまです。また、新規の抗がん剤、分子標的薬が続々と発売され国内外で多くの臨床試験がおこなわれて治療方法も選択肢が広がってきています。各種の画像診断、病理診断および遺伝子診断も日々進歩をとげています。このような環境で、診断、治療において主科のみならず総合的な判断が求められる機会が増えてきています。またがん治療に特化した看護師、薬剤師が積極的に介入することで患者さんは多くの恩恵を受けています。このように今や、がん治療はチーム医療が基本となっておりますが、臨床腫瘍科はその司令塔の役目を担っていきたいと考えています。

【2012 年度研究発表業績】

A-0

Kudawara I, Aoki Y, Ueda T, Araki, N, Naka N, Nakanishi H, Matsumine A, Ieguchi M, Mori S, Kuratsu S, Myoui A, Hashimoto N, Yoshikawa H.

Neoadjuvant and adjuvant chemotherapy with high-dose ifosfamide, doxorubicin, cisplatin and high-dose methotrexate in non-metastatic osteosarcoma of the extremities –a phase II trial in Japan. J Chemother. 2013; 25: 41-48

Hasegawa H, Fujitani K, Nakazuru S, Hirao M, Mita E, Tsujinaka T. Optimal indications for second-line chemotherapy in advanced gastric cancer. Anti cancer drugs 2012; 23(4):465-470

B-2

Ueda J, Ishii K, Oike M, Kajihara K, Michikawa A, Enami A, Shikata A, Miyamoto H, Watatsu C, Satomi E. Aromatherapy as symptom relief for cancer patients. 7th Conference on Research in Palliative Care, Trondheim, Norway, 2012 年 6 月

Aono N, Satomi E, Ueda J, Oike M, Matsuyama K, Azechi M, Yamaji K, Kusuki S, Hirotsune H, Tsujinaka T. The efficacy of lidocaine for pain with abdominal distention. 7th Conference on Research in Palliative Care, Trondheim, Norway, 2012 年 6 月

Hasegawa H. A randomised phase III clinical trial of combined therapy with CPT-11/CDDP versus CPT-11 alone in patients with advanced or recurrent gastric cancer resistant to S-1(TRICS study): safety analysis. European Society for Medical Oncology Congress 2012, Vienna, Europe 2012 年 10 月

Hasegawa H. Optimal criteria of treatment change for advanced gastric cancer patients with nonmeasurable peritoneal metastasis alone. American society of clinical oncology Gastrointestinal Cancers Symposium 2013, San Francisco, USA, 2013 年 1 月

B-3

里見絵理子、楠木重範、廣常秀人：総合病院緩和ケアチームが小児緩和医療に果たす役割。第 17 回日本緩和医療学会学術大会、神戸、2012 年 6 月

B-4

竹中聡、橋本伸之、名井 陽、荒木信人、城山 晋、濱田 健一郎、大島和也、角永茂樹、青木康彰、上田孝文、久田原 郁夫、小嶋秀人、中 紀文、吉川秀樹：Ewing 肉腫ファミリー腫瘍の治療成績。第 45 回 日本整形外科学会 骨軟部腫瘍学術集会、東京、2012 年 7 月

小出周二、青野博之、角永茂樹、久田原 郁夫、上田孝文：腰椎硬膜外に発生した primary amyloidoma により馬尾症状を呈した 1 例。第 45 回 日本整形外科学会 骨軟部腫瘍学術集会、東京、2012 年 7 月

角永茂樹、上田孝文、竹中 聡、大島和也、濱田 健一郎、城山 晋、橋本伸之、中 紀文、名井陽、久田原 郁夫、荒木信人、青木康彰、吉川秀樹：表在性骨肉腫の治療成績。第 45 回 日本整形外科学会 骨軟部腫瘍学術集会、東京、2012 年 7 月

木村剛、小河原光正、笠井大介、上平朝子、白阪琢磨：クオンティフェロン TB-2G 測定結果の検

討。 第 86 回日本感染症学会総会、長崎、2012 年 4 月

高見康二、大宮英泰、中森正二、安藤性實、木村剛、宮本智、小河原光正、栗山啓子、真能正幸、辻仲利政：イレッサを長期内服後に手術切除を施行した肺腺癌の 1 例。第 53 回日本肺癌学会総会、岡山、2012 年 11 月

大宮英泰、高見康二、中森正二、辻仲利政、小河原光正、栗山啓子、真能正幸：腫瘍径 20mm 以下の非小細胞肺癌手術例における術前 FDG-PET に関する検討。第 53 回日本肺癌学会総会、岡山、2012 年 11 月

尾池真理、井出恭子、上田純子、齋藤明音、道川綾加、里見絵理子、青野奈々、高居千幸、渡辺真弓：A 急性期病院におけるがん患者が緩和医療目的に転院された患者の実態。第 17 回日本緩和医療学会学術大会、神戸、2012 年 6 月

青野奈々、里見絵理子、上田純子、尾池真理、松山和代、廣常秀人、辻仲利政：終末期における化学療法についての検討。 第 17 回日本緩和医療学会学術大会、神戸、2012 年 6 月

里見絵理子、青野奈々、上田純子、尾池真理、松山和代、道川綾加、齋藤明音、井出恭子、山路和弘、廣常秀人、辻仲利政：超高齢者緩和ケアについて～急性期病院緩和ケアチーム介入超高齢者例をふりかえって～。第 17 回日本緩和医療学会学術大会、神戸、2012 年 6 月

濱 卓至、池永昌之、川島正裕、梶山徹、里見絵理子、山崎圭一、松岡弘道、柏木雄次郎：早期からの緩和ケアの実践に対する障壁となっているものは何か？～アンケート調査結果からの検討～。第 17 回日本緩和医療学会学術大会、神戸、2012 年 6 月

齋藤明音、道川綾加、上田純子、尾池真理、青野奈々、里見絵理子、廣常秀人、福井好枝、渡津千代子：看護実践に困難を感じる終末期がん患者の対応を経験した看護師の心理的影響。第 17 回日本緩和医療学会学術大会、神戸、2012 年 6 月

井出恭子、上田純子、尾池真理、齋藤明音、松川佐和子、渡津千代子、里見絵理子、青野奈々：A 病棟における Palliative Care Conference での認定看護師の役割の検討-病棟看護師の認識実態調査から-。第 66 回国立病院総合医学会、神戸、2012 年 11 月

長谷川裕子、藤谷和正、平尾素宏、中水流正一、山本和義、岩崎竜一朗、岩崎哲也、榊原祐子、由雄敏之、石田永、三田英治、辻仲利政：胃癌腹膜転移症例における化学療法レジメン変更のタイミ

ングの意義。第 50 回 日本癌治療学会学術集会、横浜、2012 年 10 月

長谷川裕子、藤谷和正、平尾素宏、中水流正一、三田英治、辻仲利政：切除不能進行・再発胃癌症例の三次治療における予後因子解析。第 10 回 日本臨床腫瘍学会学術集会、大阪、2012 年 7 月

長谷川裕子、藤谷和正、平尾素宏、中水流正一、山本和義、三田英治、辻仲利政：切除不能進行・再発食道癌における予後因子解析。第 66 回 日本食道学会学術集会、長野県、2012 年 6 月

B-7

小河原光正、木村剛、松野裕旨、高見康二、大宮英泰、矢嶋敬史郎、白阪琢磨、児玉良典、眞能正幸：長期間 ART 未導入の HIV 感染者に偶然発見された肺内結節が 5 ヶ月の経過で軽度増大し、手術により単発性線維性腫瘍(solitary fibrous tumor; SFT)と診断された一症例。市民公開講座第 14 回白馬シンポジウム in 京都、京都、2012 年 6 月

B-8

里見絵理子：骨転移による疼痛の緩和～鎮痛薬の使い方～。第 1 回骨転移治療研究会、大阪、2012 年 9 月

里見絵理子：急性期病院における緩和ケア病棟との連携。大阪緩和ケア地域連携カンファレンス、大阪、2012 年 11 月

里見絵理子：緩和医療における消化器症状のマネジメント～嘔気・嘔吐、腹部膨満～。協和会千里中央病院定期講演会、大阪、2012 年 12 月

里見絵理子：消化器症状。松下記念病院緩和ケア研修会、大阪、2012 年 9 月

里見絵理子：がん疼痛の評価と治療。松下記念病院緩和ケア研修会、大阪、2012 年 9 月

里見絵理子：がん疼痛の評価と治療。八尾市民病院緩和ケア研修会、大阪、2012 年 10 月

里見絵理子：地域連携と治療・療養の場。大阪市立大学病院緩和ケア研修会、大阪、2013 年 1 月

里見絵理子：ロールプレイのスキル。日本緩和医療学会主催第 21 回緩和ケア基本教育のための指導者研修会、船橋、2012 年 7 月

里見絵理子：緩和ケアおよび精神腫瘍学の基本教育に関する指導者研修会。日本緩和医療学会主催
第 22 回緩和ケア基本教育のための指導者研修会、大阪、2012 年 9 月

里見絵理子：双方向性講義の教育・実践。国立がん研究センター主催平成 24 年度緩和ケア基本教育のための都道府県指導者研修会、船橋、2012 年 11 月

里見絵理子：教育の実践。日本緩和医療学会主催第 23 回緩和ケア基本教育のための指導者研修会、大阪、2013 年 2 月

里見絵理子：院内の患者・家族向けに緩和ケアを効果的に普及するための方策とは？ 大阪府緩和ケアチーム研修会、大阪、2013 年 3 月